

# おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 10 号 (7 月 10 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1で初の勝ち点ゲット(しかも3)

7月7日(土)、Y1第7節の上山明新館戦が山形商業グラウンドで行われました。七夕のこの日、折しも山形市は未明から大雨。6日の降ったり止んだりから一步進んで振りっ放しの7日午前、山商グラウンドにはコーナフラッグ付近に大きな水たまりができています。「これ、中止ってことはないんでよね(中止でこちらはいいんですが・・・)」と第一試合の山商 VS 東海のスタッフに声をかけるも、皆、歯切れは悪い。中止にしたいのも山々だが、雷が鳴らない限り実施、というのがサッカー界のルール。「どうせ雷鳴るなら早く鳴ってほしいんだけど」とは、第一試合の両チームのうち、どなたかの発言。各地で水たまりができてラインが見えなくなってサッカーにならないなら、特にペナルティエリアが分からず GK が出ていいのか悪いのか分からなくなるようであれば、中止にしよう、とは試合前話し合うものの、試合開始時間が迫るに従って少しずつ雨が上がり始める。「こりゃ、あるな」と帯同審判としてラインズマンをする私も覚悟を決める。一応、第一試合のハーフタイムに第二試合の実施について判断しましょう、ということになるが、小雨になった第一試合の前半のうちに、山商グラウンドは徐々に水たまりが小さくなっていく印象あり。ベンチ側サイド(西側)のコーナフラッグ付近には大きな水たまりがあり、ボールが前に進まないものの、他の場所は試合前よりも後半開始前の方がボールが走る(前半の途中まで雨は降っていたのに)。会場責任者の山商 K 井先生のハーフタイムでの判断を仰ぐまでもなく、第二試合は絶対実施と確信。

「とすれば、このグラウンドコンディションがどちらに吉と出るか凶と出るか」とラインズマンをしながら思案を巡らす。上山明新館は県総体後も3年生の主力が残っており、スピードスターのいるオフェンス陣には破壊力がある。ぬかるんだピッチコンディションで、縦の馬力を発揮されると、山東苦しい。対して山東の攻撃の駒は、ヨシタカやクリロンのような小兵のMFと、速さというより柔らかさで勝負するFWコテツチャンによって中央付近の攻撃が成り立っており、オフェンス陣でスピードがあるのはリクくらいか。雨の日には縦に大きくフィードし続ける(横パスやバックパスは逆にボールが止まり奪われる危険性があり雨の日は敬遠される)作戦が常套であり、山東の攻撃が成り立つのか、不安になる。ただ、グラウンド中央付近は結構(普通に)ボールが走るようだし、アウトサイドも観客側(東側)は比較的水たまりが小さい。「どうせベンチサイドは水たまりでボールが走らないんだったら、いっそのことそちらサイドのMFを省いて、4-4-2のシステムでダブルボランチにトップ下を配置し、サイドMFは片方だけにしたら、面白い」とは、ラインズマンをしながら思いついた発想。前節も4-1-4-1(4-5-1)でスタートしたものの、後半4-4-2(ボックス型)

にして逆転に成功している。できればツートップにしたい（4 - 1 - 4 - 1や日本代表が採用している4 - 2 - 3 - 1は避けた）ものの、現在のチームにはCMF型の選手が3名おり、CMFの3名を同時に使いたい（4 - 4 - 2は避けた）。試合前からどちらにしようか考えていたものだから、「一方のサイドが使えないなら、一層のこと変形4 - 4 - 2にすればジレンマを一挙に解消できるし、グラウンドコンディションに合ったシステムになるかも」などと思いつく。もちろん中盤で山東の空いたサイドを明新館が使ってきたときに、誰かがプレッシャーをかけなければならず、ディフェンスにおいて機能するかは心配なところ。

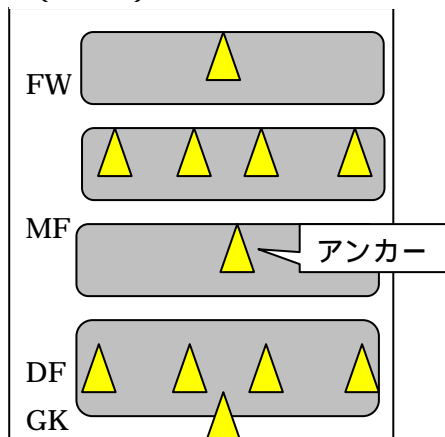
試合が始まると、山東が優勢に試合を進める。トップ下に入ったヨシタカはショートパスの正確性には光るものがあり、FWと近いところにポジションを取り効果的なパスを出し続ける。最初からツートップにトップ下（そしてダブルボランチ）というシステムがうまく機能する。そして、「シューティング」<sup>1</sup>崩れの幸運な形から、前半始まってすぐ得点。その後も、テンポ良くパスが回り、前節不安定だったマサノブとイクトのCDFも相手FWに仕事をさせない。うまい具合に連続得点し、前半で3 - 0。「あと3分だから、このままゼロで抑えろ」などと監督が余計なことを言うから失点してしまうのか、ボールが水たまりで止まってしまったところを要注意の明新館スピードスターに拾われ、結局失点し、前半を3 - 1で折り返す。

最後、余計な一点を献上したものの、前半は攻守とも主導権を握ることができ、内容・結果ともに素晴らしい。変形のシステムがうまくはまったということ以上に、選手が力をしっかり出せていて、頼もしい。ディフェンスでも空いたサイドを誰かがしっかり埋めようという意識が見られる。ハーフタイムには後半もこのまま攻め続けることを確認して、選手を送り出す。

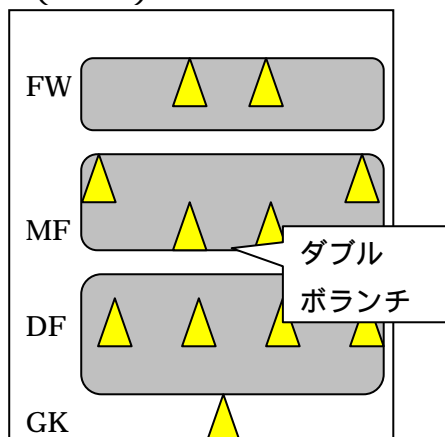
後半は、一点追加するとともに明新館の攻撃をなんとか凌いで、結局4 - 1の快勝。後半は、明新館の寄せの速さが光り、セカンドボールを奪われることが多く、内容的には明新館にしてやられましたが、それでも悪い内容をスコアに簡単に反映させない戦いができました。

裏天王山ともいえるこの戦いをしっかり勝ち切ったことは大きい。待望の勝ち点3ゲット。次節の相手は裏天王山 part2 のモンテユース B。応援よろしくお祈りします。7月14日（土）Y1 モンテユース B 戦 16:00 ~ @天童第二

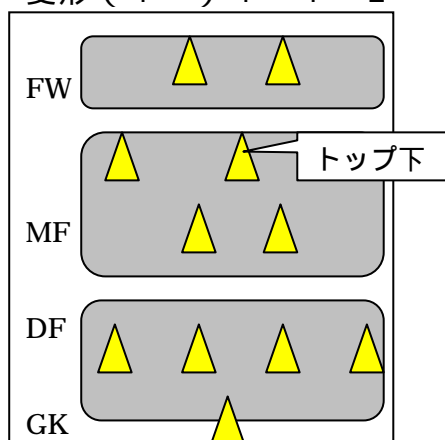
(1 - ) 4 - 1 - 4 - 1



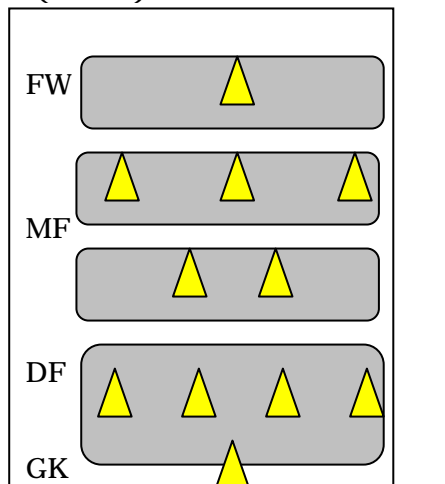
(1 - ) 4 - 4 - 2



変形 (1 - ) 4 - 4 - 2



(1 - ) 4 - 2 - 3 - 1



<sup>1</sup> シュートとセンターリングを組み合わせた造語。23年度部報第3号の注の説明をご覧ください。